

# 岐阜県農業技術センターニュース No.31

## フランネルフラワーの新しい切花品種を育成しました！ (花き部)

### フランネル新品種「ファンシーマリエ」

当所が育成したフランネルフラワー品種「ファンシースノー」は、輸入品に比べ、日持性や品質に優れ、市場で高い評価を得ています。しかし、3月～5月の春一季咲き性であるため、秋期に出荷できる切花品種は有りませんでした。

今回育成した品種は、切花用として初となる四季咲き性品種で、秋出荷が可能となって需要拡大が期待されます。さらに、既存品種に比べ切花長は長く、丈が短くなる秋期でも40cm以上の切花を出荷でき、年間を通した高品質な切花生産が可能となります。

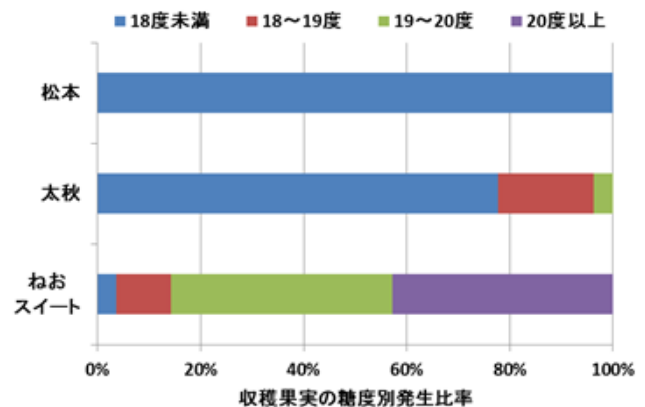
ジャパンフラワーセレクションでは入賞するとともに「ブリーディング賞」を特別受賞し、切花としての商品性が高く評価されました。



## カキ新品種「ねおスイート」を育成しました！ (野菜・果樹部)

岐阜県瑞穂市居倉で発見された「富有」は、全国で最も栽培面積の多いカキ品種です。「富有」の命名から百有余年、岐阜県では新しいカキ品種「ねおスイート」を世に送り出します。

「ねおスイート」は、平均20度以上の高い糖度とサクサクした食感を併せ持ち、これまでの品種にはない新しい食味を持つことから、ギリシャ語の「Neo」と本県のカキが根尾川の清らかな水から育まれていることをかけて命名しました。



### ★★★平成27年度成果検討会を開催します★★★

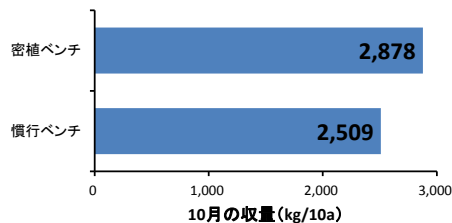
日時：平成28年2月16日(火) 13時30分～

場所：農業技術センター講堂

※詳細は後日ホームページに掲載いたします。皆様のご参加をお待ちしております。

# トマトの増収技術の開発～50tどり実現に向けて～（野菜・果樹部）

岐阜県オリジナルのトマト養液栽培システム「独立ポット耕」の生産性をさらに向上させる目的で、新たな仕立て法、効率的な環境制御技術の開発および栽培ベンチの改良等に取り組んでいます。



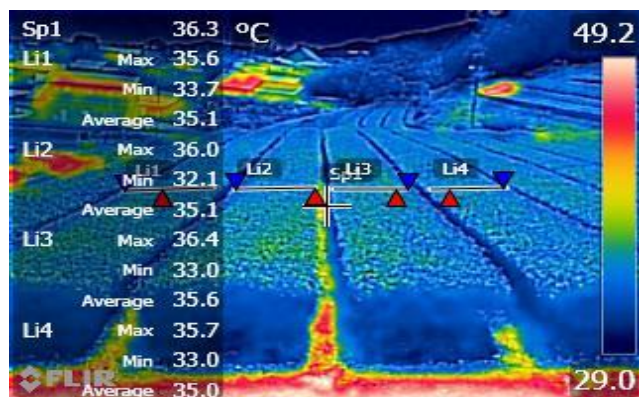
これまでの独立ポット耕システムは株間40cmの1条植え（2,500株/10a）でしたが、密植型の改良ベンチ（株間32cmの2条千鳥植え、3,125株/10a）を採用したことにより、10月の収量が慣行より15%程度増加しました。今後も様々な要素技術を組み合わせ、50tどり実現に向けて試験を続けていきます。

## 茶の樹勢診断技術の開発を始めました！

（作物部）

リーフ茶需要が低迷する中、品質が向上する『かぶせ茶』が求められています。茶樹を遮光することで樹勢が低下します。また、近年の異常気象が原因とみられる生育障害が多発しており、樹勢を客観的に把握して安定生産につなげる手法が必要となっています。

そこで、2015年度から5年間で、①夏期の樹冠面温度（サーモグラフィの利用）、②冬期～春期の根のデンプン含量、③冬期～春期の成葉の全窒素含有量と、一番茶収量等との関係について検討し、樹勢の評価指標の策定にむけた取り組みを進めています。



茶樹冠面の熱画像

## 省力低コストの新規土壌還元消毒技術を開発しています！

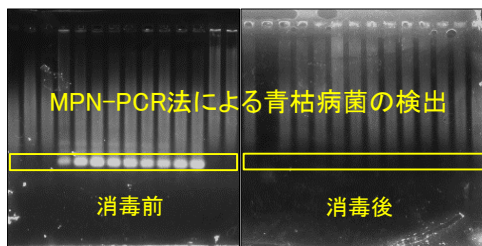
（生物機能研究部・環境部）

トマトなど野菜生産では土壌病害防除のため土壌の還元消毒が行われていますが、米ぬかやフスマ等を用いる従来の方法では深層までの消毒効果が不十分です。一方、廃糖蜜やエタノールを用いた深層まで効果が高い技術は、作業性や経済性の面から更なる改良が必要です。

そこで、総合科学技術・イノベーション会議のSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）「次世代農林水産業創造技術」（管理法人：農研機構生物系特定産業技術研究支援センター）の支援を受けて、省力・低コストで深層まで消毒できる新しい土壌還元消毒資材の開発を進めています。



土壌還元消毒



MPN-PCR法による青枯病菌の検出

消毒前

消毒後

トマト青枯病菌の遺伝子